

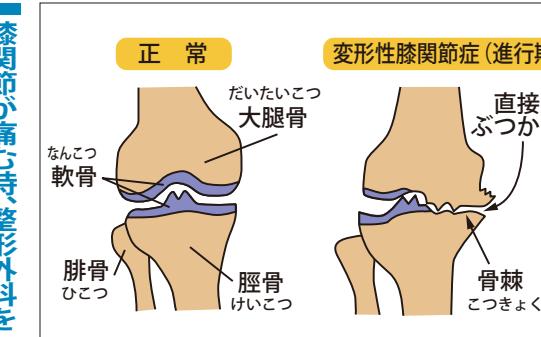
# 広告

協力：ジンマー・バイオメット

教えてドクター 整形外科医に聞いてみました！

膝関節が痛む時、整形外科を受診するタイミングと早期に受診することのメリットについて教えてください。

治療の対象になるのは、膝に痛みがある程度で、それがなかなか治らなかったり、腫れたり、歩行が困難な状態です。このタイミングでは受診すべきだと考えます。違和感がある程度でも受診自体は問題ありません。逆に、見るから腫れていたり膝が悪くなる、膝の痛みが何かを邪魔する状態です。このタイミングでは受診すべきだと考えます。違和感がある程度で、それがなかなか治らなかったり、歩行が困難な状態です。このタイミングでは受診すべきだと考えます。違和感がある程度でも受診自体は問題ありません。逆に、見るから腫れていたり膝が悪くなるなど)やらないといけないこと(仕事など)を全てできているのなら、と」を全てできているのなら、



膝が痛む主な原因と症状は何でしょうか？

関節リウマチや事故・スポーツによるケガなど膝が痛む原因はさまざまありますが、加齢とともに現れるものとして特に多いのが変形性膝関節症です。男性よりも女性に多く、これには加齢による女性ホルモンの減少が影響していると考えられています。

人が歩行をするときには体重と膝を伸ばす筋肉である大腿四頭筋のバランスがとれて、膝の内側と外側に同じように力がかかるようになります。しかし、体重が増加したり、大腿四頭筋の力が落ちたりすると、膝の内側に強い力がかかることになり、内側の軟骨が主にすり減っていきます。その結果、真っすぐ立つた時に膝と膝がくっつかない、いわゆるO脚になってしまいます。

变形性膝関節症と診断すると、まず筋力を落とさない減量方法や膝に負担の少ない筋力強化方法などの指導を行います。また症状によって異なりますが、痛み止めの飲み薬や湿布や塗り薬を処方したり、関節内にヒアルロン酸やステロイドを注射したりします。保存療法で効果が見られない場合は手術を検討します。手術法については、膝関節近くの脛骨を切って向きを変え、O脚の変形を矯正することで痛みを改善させる骨切り術傷んで変形した膝関節の表面を取り除いて人工膝関節に置き換える人工膝関節置換術が基本となり、現在は人工膝関節置換術の方が割合が多いです。

变形性膝関節症の治療法にはどのようなものがありますか？

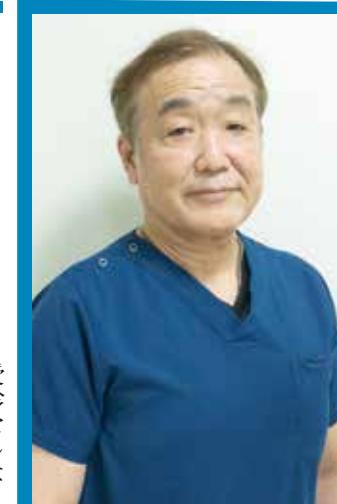
受診をしなくともいい場合があります。早く受診することのメリットはそれだけ早く治療を開始できることだと考えますが、

大切なことは体重を減らすこと、筋肉をつけることです。

始できることだと考えますが、

大切なことは体重を減らすこと、筋肉をつけることです。

中高年に多い変形性膝関節症と、その手術を正確に行うための手術支援口ボットについて興生総合病院整形外科河野正明副院長にお話を伺いました。



河野 正明 先生  
興生総合病院 副院長

所属学会：日本整形外科学会、日本手の外科学会、中部日本整形外科学会、中国四国整形外科学会、日本小児整形外科学会

取る必要があるため、この状態でさらに微調整を行います。執刀医は手術支援口ボットのアームを持ち、タッヂパネル上でプログラムされた位置にアームを合わせ骨を切除します。このように、人工膝関節置換術では術前計画と術中調整の2段階で手術支援口ボットは使用されています。

手術支援口ボットを使用することにより、手術にどのようなメリットが期待されているのでしょうか？

手術で骨を切除する角度や量、人工関節の設置位置などは患者さんごとに異なります。これはこれまで執刀医の経験に委ねられていましたが、この誤差が殆どなくなり正確性が高まることが期待されます。結果、術後の早期回復が期待できます。現在は材質も向上し20～30年保つと言われる人工関節を、多くは60～80代の方が設置されるわけですから、一度の手術で一生保たせなければと考えています。経験・実力に加え手術支援口ボットの判断があることで、執刀医も安心して手術に臨めるわけです。日本では2019年7月から手術支援口ボットによる人工膝関節置換術が保険適用となっています。



最近よく聞く手術支援口ボットとは、どのようなものなのでしょうか？

手術支援口ボットとは、コンピュータで制御された手術支援システムのことです。人工膝関節置換術で使用する手術支援口ボットは自動で動くものではなく、より正確に安全に執刀医をサポートしてくれるものです。具体的にはまず、患者さんの膝や足全体の骨格やバランス、変形の程度などをレントゲン画像を口ボットに読み込みませ3次元モデルを作成し、位置を患者さんに判断します。実際の手術では、人工関節を入れる前に関節内の骨の棘を取り除いたり硬くなつた軟部組織を剥がしたり内外側のバランスを

膝の痛みの程度はさまざまだと思いますが、一度受診していただくと筋トレなど患者さんにあつた生活指導をお伝えできます。手術に抵抗がある方も多く思います。全身麻酔に硬膜外麻酔を併せることにより、術後は痛みをほとんど感じることなく手術に抵抗がある方が多いと思います。近年平均寿命が伸びていますが、重要なのは健康寿命です。痛みでやりたいことができないのであれば、痛みを取つて、やりたることはできるようにしまします。手術可能かどうかを年齢で判断することはできません。も

う歳だから…とあきらめることなく、動けることで筋肉がつき、筋肉がつくことが健康寿命を伸すことにつながると期待されます。まずは医師に相談して下

